

獨協埼玉中学校 令和3年度 第三者評価

実施日6月21日

1. 基礎学力育成に向けての取り組み。中弛み傾向の改善をどのように図っていくか。

少し前の「アクティブラーニング」、現在の「探求」など、単純な学習習慣から生徒自身が主体的・能動的に学習する方向性が求められている。その視点から行くと中学1年または自習習慣のない生徒はまず「机に向かう姿勢作り」から求められるが、中弛み防止の観点からも、単にドリル形式であるものではなく生徒自身が興味関心を持って調べものをするなど学習するような内容が求められるのではないかと。また Chromebook を活用した取り組みも積極的に行っており方向性が出ているのは評価できる。

他校の事例として、平均家庭学習時間を測定して目標値設定、それも少しずつ長くする方法で家庭学習時間を増加させている。また自室で学習しない風潮を鑑み、朝・夕方の学校内自習を奨励している。学校内の場合他人の自習風景が刺激になる一方、自室では自分に甘えが出るのでなかなか自習習慣が会得できない。うまくいかない生徒は学校の自習室活用から誘導しては、生徒が自習の方法(課題がないとどうしていいかわからない)を理解しているかを再確認できるであろう。

さらに他の学校では自習スペースを複数確保しており、そのうちの一か所では「宿題。課題禁止」となっている。得意・苦手どちらでもいいから、自分が何を学習するかも考える機会にしている。一方、定期試験を廃止する学校などが増えてきていいるが、現場の声としては難しいとの声も上がっている。

年度評価ではある程度の達成度が得られたとのことなので、今後はさらに学習時間と学習内容の充実を図る方向でいいのではないかと。

2. 携帯電話・SNS の使用方法について。

SNS に関する問題が残っている。

誹謗中傷に関してはいじめと同質の問題なので、いじめ同様「小さいことも見逃さない」「加害者となっていることに気づかないことを認識させる」ことが必要である。

他人事として話を聞いていると身につかないので、教員自身の SNS に関する事例報告や生徒事例も引き合いに出してはどうか。クラス・生徒会など生徒達で検討する機会を設けることも必要ではないか。メールなどによる伝達は感情が増幅あるいは誤解されることがよくあるので、この点も留意する必要がある。メール伝達のコツを教員の実体験からでも伝えるべきであろう。私の経験則からは「負の要素はなるべく口頭で」「メール送信前に、客観的に文章を再読」「文章省略化のあまり誤解を生んでいないか」「一斉送信先の再確認」などが思い浮かぶ。

また今後は「携帯あり」の方向(学校で預かるのではなく)で学校生活を考える必要も出てきている。

3. 登下校時の安全確認とマナー向上について。

苦情が減少傾向とあるので効果が出ていると思われる。

SNS 同様他人事と思うと身につかない事柄であると感じる。また集団心理(仲間が大勢いると行動が甘くなる)の際がでないよう、大人数でも自身を客観的に見る習慣をつけさせることが理想である。そのためには日頃他の集団ではめを外しているケースに着目することが必要だ。これは大人の集団を観察しても十分役に立つ。他校事例として、生徒会で登下校のマナー向上に対する会合を開く、生徒が登校時の立ち合いをするなどの例がみられる。

今後は地域の方とのつながる機会の確保し、「一緒に見守ってもらうような関係」といった普段からのコミュニケーションを築いていくと良いと思われる。